

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	敷島製パン株式会社 刈谷工場D棟	階数	地上4F
建設地	愛知県刈谷市西境町広見24番地 外	構造	S造
用途地域	その他	平均居住人員	100 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年11月 予定	評価の実施日	2016年11月28日
敷地面積	5,527 m ²	作成者	株式会社 日建設計
建築面積	2,673 m ²	確認日	2016年11月29日
延床面積	6,685 m ²	確認者	株式会社 日建設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

3.0 1.5 BEE=1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	98%
③上記+②以外の	98%
④上記+	98%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 4
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>45.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	45.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	45.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td><外装材に使用した地域性のある材料></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
			評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質									2.7
Q1 室内環境									3.1
1 音環境									3.0
1.1 騒音			3.0	0.15					
1.2 遮音			3.0	0.40					
1 開口部遮音性能			3.0	0.60					
2 界壁遮音性能			3.0	0.40					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-					
1.3 吸音			3.0	0.20					
2 温熱環境									3.0
2.1 室温制御			3.0	0.50					
1 室温			3.0	0.38					
2 外皮性能			3.0	0.25					
3 ゾーン別制御性			3.0	0.38					
2.2 湿度制御			3.0	0.20					
2.3 空調方式			3.0	0.30					
3 光・視環境									3.0
3.1 昼光利用			3.0	0.30					
1 昼光率			-	-					
2 方位別開口			3.0	1.00					
3 昼光利用設備			3.0	0.30					
3.2 グレア対策			3.0	1.00					
1 昼光制御			3.0	0.15					
3.3 照度			3.0	0.25					
3.4 照明制御			3.0	0.20					
4 空気質環境									3.5
4.1 発生源対策			4.0	0.50					
1 化学汚染物質		全面的に☆☆☆☆建材を採用	4.0	1.00					
4.2 換気			3.0	0.30					
1 換気量			3.0	0.33					
2 自然換気性能			3.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.33					
4.3 運用管理			3.0	0.20					
1 CO ₂ の監視			3.0	0.50					
2 喫煙の制御			3.0	0.50					
Q2 サービス性能									3.1
1 機能性									2.8
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40					
1 広さ・収納性			3.0	0.33					
2 高度情報通信設備対応			3.0	0.33					
3 バリアフリー計画			3.0	0.33					
1.2 心理性・快適性			2.3	0.30					
1 広さ感・景観			3.0	0.33					
2 リフレッシュスペース			3.0	0.33					
3 内装計画			1.0	0.33					
1.3 維持管理			3.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50					
2 耐用性・信頼性									3.1
2.1 耐震・免震			3.0	0.48					
1 耐震性			3.0	0.80					
2 免震・制振性能			3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数			3.4	0.33					
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			5.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		屋外露出・厨房・多湿などの系統はガルバリウム又はSUS製を採 主要な配管上位2種にB以上を採用	5.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23					
2.4 信頼性			3.2	0.19					
1 空調・換気設備		電気・ガスの熱源インフラ2重化	3.0	0.20					
2 給排水・衛生設備			3.0	0.20					
3 電気設備		非常用発電機の採用	3.0	0.20					
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA	4.0	0.20					
5 通信・情報設備			3.0	0.20					
3 対応性・更新性									3.4
3.1 空間のゆとり			4.2	0.31					
1 階高のゆとり		階高4.36m	5.0	0.60					
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40					
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31					
3.3 設備の更新性			3.2	0.38					
1 空調配管の更新性			3.0	0.17					
2 給排水管の更新性			3.0	0.17					
3 電気配線の更新性			3.0	0.11					
4 通信配線の更新性			3.0	0.11					
5 設備機器の更新性			3.0	0.22					
6 バックアップスペースの確保		バックアップスペースを確保	4.0	0.22					

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.0	0.30	-	-	2.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				1.0	0.50	-	-	1.0
				3.0	0.50	-	-	3.0
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
BPI _m =0.67								
1 建物外皮の熱負荷抑制				4.0	0.04	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.27	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化								
集合住宅以外の評価(3a.3b)				3.0	1.00	-	-	3.0
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	-
4 効率的運用								
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	3.0
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	3.0
集合住宅の評価				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源保護								
1.1 節水		節水型便器・擬音装置の採用		3.4	0.15	-	-	3.4
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				4.0	0.40	-	-	4.0
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	3.0
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減				3.8	0.63	-	-	3.8
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.07	-	-	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.24	-	-	3.0
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	床タイル、断熱材、天井ボード		3.0	0.20	-	-	3.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材				5.0	0.20	-	-	5.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	ユニット部材採用、内装材への天然素材採用		3.0	0.05	-	-	3.0
				5.0	0.24	-	-	5.0
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.3	0.22	-	-	3.3
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.32	-	-	3.0
1 消火剤				3.5	0.68	-	-	3.5
2 発泡剤(断熱材等)				-	-	-	-	-
3 冷媒		ODP=0,GWP=3		4.0	0.50	-	-	4.0
				3.0	0.50	-	-	3.0
LR3 敷地外環境								
ライフサイクルCO2概算値:98%								
1 地球温暖化への配慮	①			3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮								
2.1 大気汚染防止				3.0	0.33	-	-	3.0
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.25	-	-	3.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.50	-	-	3.0
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25	-	-	3.0
2 汚水処理負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	3.0
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	3.0
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	3.0
3 周辺環境への配慮								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.33	-	-	3.0
1 騒音	独自			3.0	0.40	-	-	3.0
2 振動	独自			3.0	0.33	-	-	3.0
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	3.0
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	3.0
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	3.0
2 砂塵の抑制				-	-	-	-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	3.0
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	3.0
1 屋外照明及び屋内照明のつらみに照れる光への対策				3.0	0.70	-	-	3.0
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	3.0

重点項目スコアシート

数島製パン株式会社 刈谷工場D棟

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:45%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	食品工場として必要となる機能を確保しつつ、利用者にも環境にも優しい建物を計画する。
Q1 室内環境	内装材には☆☆☆☆建材を全面的に採用し空気質環境向上をはかる。
Q2 サービス性能	設備配管・ダクトの使用材料に配慮し設備機能の耐用性向上を図る。 また設備機器のバックアップスペースを設けるなど、将来の更新性向上を図る。
Q3 室外環境(敷地内)	可能な限り緑化を施し、敷地内の環境向上を図る。
LR1 エネルギー	外皮面に断熱材を施し外部からの熱的影響を抑制する。また高効率機器やLED照明採用による省エネルギー性向上を図る。
LR2 資源・マテリアル	エコマーク認定品や、再利用可能な部材を採用し非再生資源の使用量削減に取り組む。
LR3 敷地外環境	騒音、振動、日影等は法令を遵守する。また省エネルギー性向上を図ることで二酸化炭素排出量を抑制する。
その他	-